

昭和十年度

復活第二回早慶対抗試合の想い出

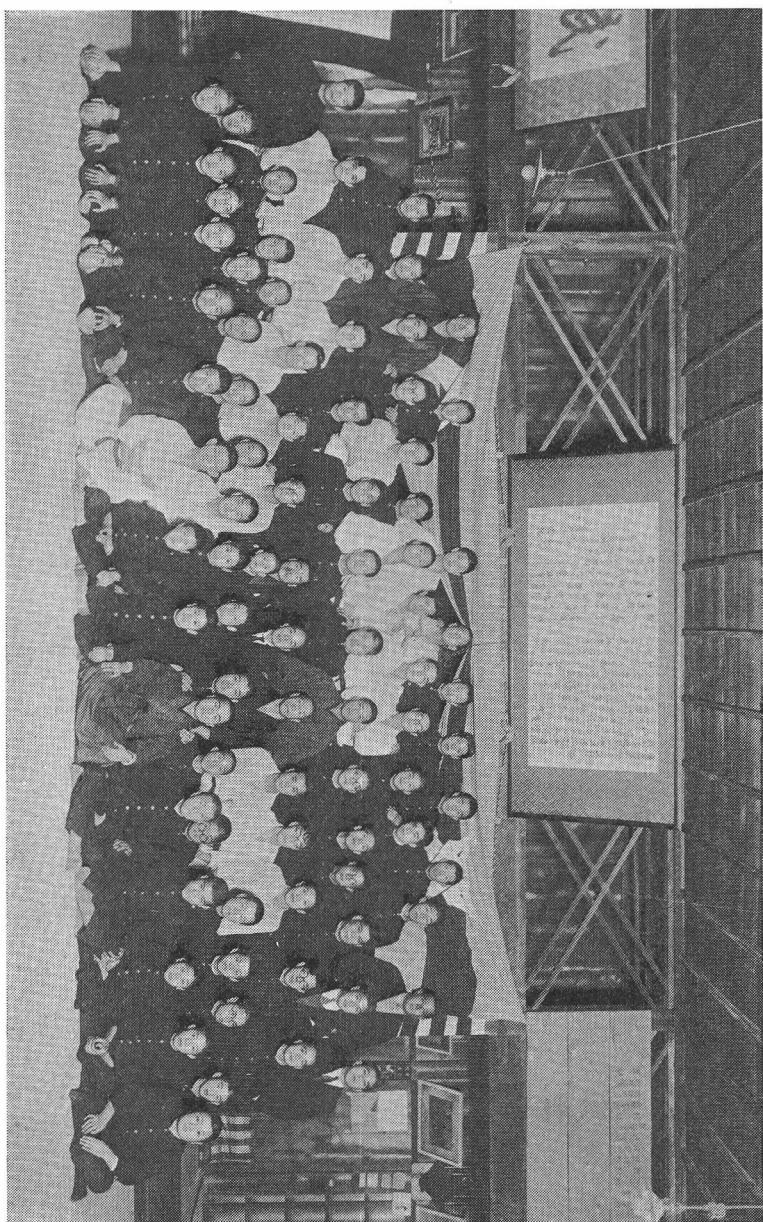
菅井良祐

この試合は私にとって柔道選手生活中の痛恨事とも言うべきもので、忘れよう忘れようと努めて来たもので、これを想い起して書けとは誠に罪な話である。

人それぞれ修業修練のうちには種々と誤算失敗があるものである。これが実は考えようによつて進歩飛躍への踏み台になるものであるが、余りにも大きな痛手は忘れようと努めるのもまた凡人の心情であろう、併しながら編纂委員の苦労を思うと断わるわけにもゆかない、当時を回想し現存する選手諸君にも確め合い当時の模様を書いて参考に供しようと思う。

勝敗は時の運とも言うが我が慶應軍にとってこの試合は誠に不運不幸なことが重なつた、併しながら勝負の世界といふものは何れの方にも種々と思わぬ事故というものがあるものであつて、これを乗り越えてこそ勝利があるとしなければならない、従つて運三分の実力七分と見るべきであろう。

前年行われた、復活第一回慶応予科、高等部対早稲田第一、第二高等学院の対抗柔道戦は大将岡崎君の奮闘によつて引分けとし、塾の名譽を辛じて保つことが出来た、そして翌年の第二回即ち昭和十年の対抗戦はもうこの瞬間から



昭和十年卒業生送別大会記念

始つた、実は選手が足りないのである。

幸にも先輩や高学年の方々の苦心配慮で翌年四月には一応形は整つた、しかもそれは侯野、田岡という当時中学、商業学校（五年制）では超弩級の選手をはじめとして久留（六尺三寸）桑原（二十八貫）という巨漢の新人を迎えることが出来たからである。併し二〇名の両軍の選手を前年度と対照すれば解るように、早稲田軍は五名の新人起用で済んでいるが我が慶應軍は半數十名の起用である、しかもそれが殆んど新入生諸君である。

半歳の期間で新入生選手と先輩選手とを打つて一丸とするにはどうしても其処に無理が生ずる、しかも先輩選手より技倆は数段上の新人二名と八名の下級新人である。これをどう融和しどう鍛錬するか苦心の要するところであった。

二学期に入つて稽古が激しくなつて来たところ、九月末であつたるか桑原初段がどうしたことか赤痢に罹り慶應病院に入院してしまつた、十月十日頃退院したと思えば肝心の侯野四段が急性盲腸炎を起してしまつた仕事である。十一月三日三田通り春日旅館に合宿、十三日両軍のメンバー交換、十七日対抗試合と発表になり弥が上にも日々の稽古に熱気を帶びてくる、ところが合宿直前になつて田岡四段が膝関節リューマチに犯され病床についてしまつた、故障選手の回復を祈りつつ合宿稽古に入つたが三選手とも本復とはゆかぬ状態で試合日を迎えるに至つて、特に中堅として活躍を期待する桑原初段は又發熱して立つことが出来ぬ状態であった。

最近の対早大戦（戦後）を見てつくづく思うのは、矢張り選手層の薄さというものが勝敗に大きく影響しているということである。当時は全くこれと同じ状態どころか、それ以上の悪条件下に在つた、早稲田軍は殆んど二段以上で固められ、我が軍は病人を駆り出しても約半数が初段という状態であった。

当日の状況を柔道評論家古賀残星氏は、慶應の敗因は中堅及び大将副将の不振と闘志の足らなかつたことによる

と、読売新聞に寄稿しているが遺憾ながら、それはまあ正鶴を得た批評と見なければならなかつた。

団体勝ち抜き戦に於て全軍が一丸となり得なかつたことと超弩級選手を生かせなかつたことに在ると見なければならまい。団体戦には寝食、苦楽を共にし選手の心、技、体を熟知した権限を持つ監督が必要である。飯塚師範、中野師範という立派な師範を持つ慶應にとつては誠に恵まれていたが、お二人は大師範であつて選手の駆け引きに口を差し挟む立場ではない、大学の高学年者が凡てを取り仕切るわけであるが、大分選手に遠慮があつた節がないわけでもなかつた、早稲田軍は団体勝ち抜き戦の試合運びが上手で、たとえ何と言われようと引分けるべき相手には、どうやつても引分けていた、これは余程訓練されておつたようである、その点我が慶應軍は遺憾ながら責任のない個人試合をしていた観があつたと見られる、このようなことがこの敗因となつたのではなかろうか。

試合結果は残念ながら敗者の汚名を着るに至つたが選手一同はこの対抗試合に心を燃やし試合終了まで打込んだのは事実である、今茲に稿を起していると当時の一人一人の猛練習振りが髪髪と眼前に浮んで来る。輕部君の釣込腰、久留君の長い脚を使っての右太外刈、木下君の軽妙な体落、安西君の執拗な寝業、桑原君の巨体を利用した内股、白浜君の寝業、古武君の足払、三井君の体落、石橋君の内股、加藤君の軽快な体落、北川君の背負、渡会君の強引な体落、横田君の釣込腰、小西君の華麗な小内、体落、三野君の俊敏な両手刈、巴投、寝業、近藤君の跳腰、大内、大外、鳥海君の右跳腰、内股、田岡君の真直に延びた長い脚にばねをきかした内股、足払、膝車、俣野君の体力を利しての払腰、体落、寝業等々。

余りの激しい稽古で食事がのどを通らず試合当日までには殆んどの者が三乃至四キロ減量となつておつたと記憶する。

学生生活の一コマといふか、柔道修行の一コマといふか、不運な環境にもめげず不撓不屈の精神を以て勝つといふ。

一つの目標に向つて全力を傾注したその根性は、実社会に出て如何程か有益に役立つてゐることであろう。

我々世代の者は殆んどの者が戦場を経験しているのであるが不運にも敵弾に斃れた者は別として、この鍛錬があつたればこそ食もなく山野を跋渉して野垂死もせず今日あるように思えてならない。学生時代のスポーツのお蔭というべきか。

七級の部										八級の部									
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
外	山	山	西	西	田	竹	竹	国	松	満	満	中	中	岡	岡	岡	岡	横	中
山	崎	崎	村	村	中	内	内	東	村	谷	谷	西	西	田	田	田	田	田	島
文			桂	常	作	泰				俊		福	太	郎			英		陽
夫	高		之助	司	治	茂	二			吉					次	実	三	郎	

○ 橫岡 岡
○ 塩丹 金中 神満 小簾
○ 本田 山山 山原 西浦 島島 崎崎
○ 三英 正羽 翁涙 一孝 俊涙 泷涙 太郎福
○ 郎寒 次豊 勸彦 仁太郎 之吉 仁太郎

四級の部		編入試合	8	7	6	5	4	△	3	○	2	1	五級の部	4	3	2	1	六級の部
日松	吉川	山	山	中	鈴	内	山	山	山	山	山	山	太	秋	山	太		
吉本	田口	岡	岡	沢	木	海	崎	崎	崎	崎	崎	崎	田	元	本	田		
善治郎	弘浩	三	信	康	昭							門	三四郎	榮	三	四郎		
琢	文一	郎	夫	吉	勝							泰次	三四郎	三	四郎	傳		
引内分股	引大外刈分	引背負投	引	引	引	引	引	引	引	襲	國	引	引	引	引	引		
磯日○	日吉	川小	大	中	鈴	内	仁	野	高	山			谷	太	秋	山		
辺吉	吉田	口林	角	沢	木	海	村	原	木	崎			村	田	元	本		
晃	弘浩	重	輝	信	康	昭	好	慶					嘉	三	榮			
平琢	琢文	一太	男	夫	吉	勝	弘	三	郎	泰			嘉	一郎	三四郎	三郎	傳	

二級の部		三級の部	12	11	10	9	8	○	7	6	5	4	3
守	軽湯神羽	金永児柴山	宇	鈴	笠	木	木	神	石	佐	佐	磯	
谷	部池浦鳥	沢田玉田岡	田	木	原	村	村	浦	渡	野	野	辺	
一	三貞濤輝	壯幸一進嘉	善	慶	太	滋	顯						晃
郎	郎俊太久	二郎男吉也	達	男	太	郎	太	一	茂	平			

引	引	釣	引	引	引	足	釣	引	内	引	引	釣	絞	大	外	引	内	絞	引
分	分	足	分	分		分	払	足	股	分	分	足	技	返	分	分	股	技	分

山守	軽湯神	中○○	金永児柴	立○○	宇鈴笠	大木神石	有佐
田	谷部池浦	島	沢田玉田	岡	木原塚	村浦	渡川野
清	一三貞濤	譲	壯幸一進	豊	善慶太	滋顯健	
三郎	郎俊太	治	二郎男吉	吉	達男郎	誠郎太	一夫茂

卒業生送別試合
7 6
峰 守
岸 谷
豊 一
雄 郎

○ 横 中 加 加 太 池 島 島 翁 翁 山 中 中 ○ 菅 菅 菅
 田 島 藤 藤 田 田 路 村 村 紅
 陽 三 郎 治 五 吉 修 益
 実 郎 郎 郎 慶 仁 宣 平 男

押 大 押 大 押 跳 大 足 引 大 引 引 左 大 引 大 合
 抵 外 外 外 外 外 外 扇 分 外 返 分 分 外 外 技
 达 刃 刃 刃 刃 腰 刃 扇 分 分 外 刃 分 分

△ 井 井 井 国 国 国 塩 門 柴 安 内 磯 杉 瑞 堀
 上 上 上 東 東 東 東 山 倉 崎 部 海 野 山 川 白
 豊 明 茂 豊 夫 雄 郎 勝 藏 修
 △ 羽 峰 鳥 岸 輝 豊 久 雄

一月十日

成年組

大將 副將
 酒 高 仁 荒 调 滝 成 成 高 縱 橫
 井 木 村 木 木 沢 宮 宮 田 崎 田
 章 慶 三 健 貞 誠 七 孝
 夫 郎 弘 茂 二 彦 一 郎 之

○ 佐 佐 磯 有 神 神 大 吉
 野 野 辺 川 谷 谷 角 田 紅
 晃 健 博 輝 弘
 繁 平 夫 郎 男 文

足 背 引 引 内 足 大 引 引
 扱 負 分 分 股 扇 刃 分 分
 背 負 引 引 扇 腰 技 技 紹 大 外 引 鈎 外 引
 投 分 分 分 技 技 技 技 分 足 分 足 分 分

大將 副將
 ○ 山 内 檜 野 野 山 小 小 山 清
 崎 海 崎 原 原 原 本 林 林 崎 水
 昭 正 好 重
 泰 勝 彦 三 儒 太 高 守

○ 永 渡 木 石 石 神 松 中 鈴
 田 辺 村 渡 渡 浦 本 沢 木 白
 幸 徹 太 顕 濤 善 信 康
 治 郎 一 太 郎 夫 吉

○ 横秋石石菅菅田田猪猪猪峰山守守杉乳山立笠石
 本田山橋橋原原中中谷谷谷岸田谷谷本井岡岡原井
 繁作正淳一豊清一健龍嘉豊慶太郎幸次郎
 太郎弥正紀誠郎甫雄三郎造二也吉

小内引引背袈裟大足跳上巴送釣合小内引大外引足
 内刈分分負投外刈腰四方卷技内刈腰固分足
 手扒腰固外刈腰四方卷技内刈腰固分足扒腰固
 手扒腰固外刈腰四方卷技内刈腰固分足扒腰固

本森閑閑内内笹笹加加内湯羽羽羽羽羽羽中中永永永永
 間本海海川川藤藤浦池鳥鳥鳥鳥鳥鳥島島田田田田
 太重勝俊幹啟貞輝讓
 郎利準正夫夫勝俊久治

四段	七人掛全勝	十三分二十秒	二段	七人掛全勝	大將	副將
今川敏夫			内海勝		○峰	○近石
			正		岸	白山
					藤	井
					藤	井
					芳	
					猛	漸雄埠

○○○○○○○○ ○○○○○○○○ ○○○○○○○○
 扒腰左大外刈左大外刈釣達腰釣達腰
 大將副將大將副將先鋒先鋒
 古小近横閑内菅酒山高内仁野山 千小菅大大
 屋西藤田海井井崎木海村原本住西井沢沢
 幸知作勝良慶昭好栄和良克
 三夫漸弥準正助章泰三郎勝弘三傳一夫助夫
 (3) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

神　工　武　滿　田　馬　柴　中　島　永　山　長　内　小　森　小　村　津　花
浦　藤　井　谷　中　島　崎　村　　井　路　井　海　田　岡　島　越　田　房
汎　忠　定　俊　久　　重　益　　修　謙　敏　　賢　一　義　義　勝
太　平　雄　吉　介　理　雄　男　仁　剛　平　二　勝　博　郎　仁　一　雄　哉

五級の部	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
谷谷村村嘉一郎	野荒成村木宮上正吉	成玉井村木宮村正茂	井調横田内一男	竹白田内明	白井井作	白井実	中井治	澁井仁	澁井太郎	澁井太郎	曾中西仁	岡澤	松澤	石渡	曾我部	岡田	松村	石村	泰彦
引分	扒腰	大外刈	大外刈	引分	引分	引分	引分	引分	引分	引分	扒腰	扒腰	扒腰	扒腰	大外刈	大外刈	引分	引分	引分

三級の部										四級の部											
7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	
○	渡	立	石	石	石	木	石	篠	佐	神	有	松	神	大	中山	内	高	櫛	山	山	
○	辺	岡	渡	渡	渡	村	井	原	野	浦	川	本	谷	角	沢	崎	海	木	崎	本	崎
○	徹	豊	顯	太	幸	太	大	恭	法	健	善	治	博	八	輝	信	昭	慶	正	門	
○	夫	吉	一	郎	太	太	大	敬	繁	太	夫	郎	男	夫	泰	勝	三	彦	傳	次	

大	背	引	内	内	大	外	大	内	引	引	体	引	引	合	引	引	引	上	外	大	扒	引
外	刈		股	股	返		股	股	分	分	落	分	分	技	分	分	分	方	刈	腰	分	

○	慶	渡	立	山	鈴	石	木	○	○	○	石	篠	佐	神	有	松	○	○	○	○	○	山	
田	辺	岡	岡	木	渡	村		井	原	野	浦	川	本	谷	角	沢		原	海	木	崎	本	
耕	徹	豊	嘉	康	顯	太		幸	恭	法	健	善	治	博	八	輝	信	好	昭	慶	正		
造	夫	吉	也	吉	一	郎		太	敬	繁	太	夫	郎	男	夫	泰		三	勝	彦	傳		

新入部員歓迎春季大会										二級の部												
幼年組										二級の部												
先鋒										二級の部												
○	鈴	吉	吉	常	横	亀	森	大	大	○	○	○	岸	5	4	3	2	1	8	渡		
○	木	川	川	田	川	谷	島	島	島	島	島	島	紅	羽	羽	羽	中	永		辺		
茂				内	寿	安								鳥	鳥	鳥	島	田				
弥				藏	清	誠	助	彦	茂					輝	讓	幸	治	郎				
腰	足	不	引	大	引	引	引	体	押	押	押	押		足	合	大	外	引				
足	扒	扒	明	分	外	刈	分	分	落	达	达	达		扒	技	返	刈	分				

五月十二日										先鋒												
五月十二日										先鋒												
五月十二日										先鋒												
○	鈴	浜	田	田	上	河	一	ノ	岡	浅	細	細	○	○	○	○	中	杉				
○	木	木	田	中	中	田	野	瀬	崎	岡	郎	野	白	永	湯	神	羽	本				
誠	誠	達			育	乙	宗	益						幸	貞	濤	輝	讓				
四	一	郎			三	生	明	造	靖	之				治	俊	太	久	治				

○○○○○ 鈴 鈴 鈴 鈴 岩 今 間 加 神 村 村 小 甲 峰 峰 志 カ カ プ カ 伊 石
 木 木 木 木 崎 井 崎 藤 谷 松 松 松 西 妻 岸 沢 カ リ 田
 正 政 時 慶 健 健 仙 昭 忠 一 ク ナ マ 憲 満
 久 次 夫 一 一 吉 光 浩 三 彦 世 ル ル ヤ 男 男

不 不 体 大 押 不 引 引 引 引 押 押 小 外 引 引 引 引 上 押 不 不
 明 明 落 刃 达 明 分 分 分 分 达 达 刃 分 分 分 分 方 达 明 明

○○○○○ 島 大 井 里 水 水 伊 福 田 烏 石 中 横 横 横 森 高 清 武 梶 鈴 鈴
 田 保 関 見 谷 谷 藤 田 井 海 原 島 江 江 江 井 橋 水 市 原 木 木
 陽 正 芳 志 陽 三 光 秀
 武 仁 三 二 九 郎 一 郎 武 正

○○○○○ 中 山 山 内 太 津 森 三 川 磯 加 加 加 加 二 守 守 守 守 剣 白 斎 大 鈴
 村 路 路 海 田 田 岡 戸 頭 野 藤 藤 藤 藤 瓶 谷 谷 谷 持 木 藤 野 木
 益 修 敏 五 義 賢 敏 大 喜 雅 育 一 一 皓
 男 平 勝 郎 雄 郎 正 力 藏 郎 男 介 弥 雄 章

押 押 合 大 合 引 大 押 引 引 引 引 扱 鈎 裂 姿 引 引 裂 姿 引 押 引 引
 达 达 技 外 技 分 刃 达 分 分 分 腰 达 固 分 分 固 分 分 固 分 分 分

○○○○○ 小 小 島 島 川 川 安 椿 加 池 秋 瑠 璃 村 加 小 市 小 小 清 桜 森
 田 田 口 口 口 部 藤 田 山 川 越 茂 西 田 泉 泉 水 井 江
 隆 広 朱 治 吉 善 義 忠 伸 達
 博 仁 三 郎 明 郎 慶 房 修 一 雄 彰 弘 吉 夫

大將 副將

○ 榎仁仁 太岸滝 調白田田 曾竹井石松 満染小 小門門 永
 崎村村 田田沢 井中中部 内上渡村谷林林倉井
 正 三陸貞健伝 常精作豊英泰俊 重光
 彦 弘郎男彦二仁 司二治明二吉公 太夫剛

引大押小引引押押引足大引引合引足引引大引大引
 分内刈込内刈分分达达分分払返分分技分払分分腰
 分内刈分内刈分

大將 副將

○ 谷谷荒島成成西玉玉縫横横藤藤高柴長長斎小
 村木木津宮宮村村崎田田野野田崎井井藤田
 嘉一郎太誠桂之祐孝陽七重謙
 茂郎一助男之実一郎雄二

成年組

○ 湯渡石石鈴縫神笠大大天山窪高島内内内石石
 地辺渡渡木原原浦原澤澤澤崎田木田海海海川川紅
 貞徹頭善恭法慶達羊慶昭三
 俊夫一男敬太郎夫泰三郎穂勝郎

引釣引払釣引大引引引払釣払引引不引不不不
 分腰分腰分腰分刈分分卷腰分分分明分分明明明

○ 軽軽神児児杉立木佐神松城鈴有磯磯大中野城
 部部浦玉玉本岡村野谷本後木川辺辺角沢原原後白
 三濤一健豊太博善正康健晃晃輝信好重
 郎太男造吉郎繁郎明吉夫平平男夫三明

普通部対高輪中学対抗試合

五月十六日 於 綱町道場

副将 篠原恭敬 技不明
大将 ○羽鳥輝久 小内刈
永田、山本両君病氣のため出場出来ず。大将羽鳥なく敵将を小内刈に屠る。滝沢、高木、石渡の奮闘を称す。○倉崎

山下先生古稀、内田
飯塚両先生還歎、
を祝ふ会

五月二十七日 於交詢社

塾柔道部の育ての親である三師範の御長寿を祝い、柔道部の発展に尽萃せられた御功績に感謝すると共に、益々御健勝を祈るため三田柔友会主催の祝賀会が盛大に催された。

金沢会長、菅原委員長を始め各地の先輩も多数駆け参じ三師範を囲んでの懐旧談に華を咲せた。学生十名も招待され、三師範の偉大さに深く感銘した。

本塾対国士館対抗試合

六月七日 於 綱町道場

午後四時より、飯塚、中野、両師範審判の下に、國士館武道専門学校選抜軍対本塾予科高等部柔道試合開催、敵軍意外に強く本塾大将田岡四段奮闘したが及ばず敗る。

先鋒 本
副將 勢

鳥	近	小	北	菅	石	渡	渡	和	加	加	三	三	飯	木	桑	白	島	山	安	古	笠
海	藤	西	川	井	橋	会	会	田	藤	藤	井	井	田	下	原	浜	田	川	西	武	川
又	六	郎	漸	夫	次	介	紀	藏	藏	夫	雄	司	郎	正	郎	藏	雄	憲	夫	夫	
跳	扒	引	上	引	合	引	送	繩	絞	釣	釣	左	跳	跳	背	背	內	引	小	左	引
腰	腰	分	四	方	分	技	分	腰	腰	達	達	大	跳	跳	負	負	股	足	內	跳	腰
○	○	○	○	上	上	高	市	市	佐	佐	川	○	○	○	川	川	川	三	○	○	○
子	子	川	川	野	野	橋	原	原	原	藤	藤	向	向	向	向	浦	浦	浦	浦	瀨	百

大將○田

田○田○田○田○田○田

岡岡岡岡岡岡岡

協

本塾対四校連合軍対抗試合

六月一五日

昭和七年第二十一回を以て定期戦としての対四校連合試合は中止されて以来一昨年は、農・工・水対慶・立の三校対二校の対抗戦、昨年は本塾対水産の対抗戦を行つてきたが、三年振りに昔なつかしい四校連合軍を綱町道場に迎えることとなつた。その勢は互に五十九名。

先鋒○矢野秀一
本塾
送襟紋
先鋒
佐々木(水)
四校連合

不不不不不不引内内内跳腰股
戰戰戰戰戰戰分股股股股股
大將副將

石中田四木中藏斎坂橋神原
飛林中戸原尾森藤田野谷子

○武武○永近小湯永○久○中杉渡○山石篠柴大矢
丸山田田浜藤野地野野○木島本辺辺岡渡原田田沢野
好太郎信庄一貞祐辰讓健徹嘉顕恭進達
近次肇郎俊正吉治造夫也一敬吉夫

押背絞絞引絞合引大外卷内引絞押押引合大外引引合技引
込負投技技分技技分股分技込込分技返分分分技込分

○高武加川○川○小○小岡麻○永○和坂○吉河鈴井全
橋橋島農藤(水)野野野(農)堀堀(立)崎(水)生(農)田田(立)株根(水)永(水)木(水)出(農)(水)

○ 内久安安菅島飯飯白守守今今江神輕輕大大九
 海海留西西原田田田浜谷谷村村口浦浦部部森森山
 啓正正房泰一一大常次郎武濤三數
 勝彰憲幸藏司郎郎史太郎祐

左體左釣引逆大崩裂引崩上裂固一本背負
 鈎達腰落分技外方分上四方返外引腰負
 上四方

○ 池山山鈴磯○藤○宮森森○森森○高高高高高
 上田田木部部山山崎○橋○橋○橋○橋○橋○橋○菊
 (立) (立) (水) (農) (立) (工) (農) (農) (立) (水) (水) (水) 地(農) 切

○ 三和和加菅桑鈴伊古柴柴○木木木木木山山立笛笛
 井田田藤原原原木丹武田田下下下下川川脇川川
 文德幹正寿尚三義忠俊
 雄藏夫(2)誠正完治夫武八郎雄命夫

引分上四方左大外刃左大外刃内股返右内股内股引分上四方左内股内股足引分送織紋足返燕足大外刃大内刃大外刃左卷达左内股大外刃

○ 稲稻内三○三○野平平○金○金○渡○阿木三○河河池
 田田田田上上上(農)田(立)井(農)丸丸丸(農)辺(工)小川原部(水)合(水)
 (工)(水)

大將○今川敏夫(4)	副將○梅沢正治	○梅治	○箱沢	○古川	○田中	○鳥居	○山田	○北山	○菅原	○成川	○内山	○渡会	○秋山
川○川敏夫(4)	○川治	○梅治	○利治	○箱沢	○田中	○屋中	○海中	○谷中	○本川	○井川	○相川	○海会	○山会
○引足(4)	○足(4)	○利(4)	○箱(4)	○古(4)	○田(4)	○屋(4)	○海(4)	○谷(4)	○本(4)	○井(4)	○相(4)	○海(4)	○山(4)
送襟紋	大外刈	大外刈	腕逆技	背負投	崩上四方	大内刈	上四方	大外刈	引分	跳腰	引分	内股	引分
大將○森田(立)(4)	副將○関藤吉(立)(3)	○中高(農)山(立)(3)											
○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分	○引分

記事

(三田評論、昭和一〇年七月第四五号記事)

六月十五日午後一時より綱町道場に於て本塾対四校連合柔道試合開催、両軍五十九名の精銳を具え、敵段外に優勢を持すれば、我が初段中堅よく敵二段に喰い込み、一進一退、午後七時に致るも平衡破れず、凄惨の氣、場に満ち、両軍選士決死の奮戦となる。敵一段、関将大川、三浦奮闘、凄く我が牙城に迫れば古屋、箱田両三段これを邀え撃つたが、中山、佐藤両二段に阻まれ、敵六人を残して我が梅沢副将の出陣となる。梅沢三段或は大外刈に或は釣り込み足に奮戦して敵を打取つたが、吉田三段と引分けとなり、大将今川四段の出陣となる。機を窺ふこと暫時、今川四段の大業大外刈見事に極り、次いで敵の副将関川三段に對戦、敵は長驅肥大、我れは俊敏軽捷、我せまれば敵退き、一巡して今川四段の放てる跳巻、一本と思われしも、場外に敵体落ちて極らず、此の機に乗せられ敵副将の送り襟に、我が軍惜敗。閉会七時五十分。

無級の部

進級月次試合

六月十九日

九級の部

18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	○ 福間加 小石神峰 志保 森森石 石龜鈴 一一一	○ 牧牧三 三
田崎藤 西西原谷 沢井井田田谷木瀬瀬瀬	田田井井	
憲時慶 健照忠 光 満寿茂 益	宗	
雄夫一 光一一彦世 武 男彦弥 造	進 一	
引引引大不袈引引引引膝引引引釣引足大外刈	大外刈分 払刈	
分分分刈明固分分分分分車分分分腰分		

○ 伊福間加峰小石神峰志保浜森吉石龜鈴鈴河	○ 杉伊牧西
藤田崎藤岸西原谷 沢田井川田谷木木野	本藤田川
正憲時慶仙 健照忠達光清満寿茂秀宗	隆憲卯
二雄夫一三光一一彦世郎 武一男彦弥夫明	平男進一

七級の部										八級の部									
1 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	○	27 26 25 24 23 22 21 20 19																	
森 藤田中翁翁永伴山内村	○	小劍今水大森清井伊																	
岡 瀬中村 井田路海松	リル	久 泉持井谷保江水閔藤																	
賢喜育益 孝修敏健	マク・イ	信一政陽達秀正																	
一郎 久雄三男 宣剛正平勝吉	ヤ	吾弥次三武夫正仁二																	
合 技	引引引引引扒合引引引合引	引引袈裟引引引大引引																	
	分分分分分釣技分分分技分	分分分圆分分分返分分																	

○ 川 岡藤田中鈴翁永伴山内村	○	○ 二小劍今水大森清井
口 田瀬中村木 井田路海松		瓶泉持井谷保江水閔
隆 太喜育益正 孝修敏健		雅伸一政陽達秀
三 郎雄三男久宣剛正平勝吉		男吾弥次三武夫正仁

六級の部

3 2 1	20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
○ 横 藤 藤	染 松 小 西 守 長 曾 柴 柴 满 满 島 石 石 馬 小 小 川
田 野 野	谷 村 林 村 谷 井 部 崎 崎 崎 谷 谷 渡 渡 島 島 口
陽	泰 重 桂 育 謙 精 重 俊 英 一 隆
実 一	公 二 太 助 介 二 二 雄 吉 仁 二 理 仁 三

小 外 刈	押 引 分	引 足 引 分	引 合 外 技	大 引 分	引 合 技	背 负 技	足 技	引 合 扯	横 四 方	引 足 分	引 手 分
-------	-------	---------	---------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-------

○ 滝 横 田	○ 篠 染 松 小 西 守 長 曾 高 中 柴 岡 满 島 田 石 鹿 小
沢 田 中	崎 谷 村 林 村 谷 井 部 田 島 崎 田 谷 中 渡 島 山 島
貞 常	孝 泰 重 桂 育 謙 精 七 陽 重 英 俊 久 英 一
彦 実 司	之 公 二 太 助 介 二 二 郎 雄 次 吉 仁 介 二 理 豊 仁

四級の部	五級の部
9 8 7 6 5 4 3 2 1	6 5 4 3 2 1
○ 雨 山 山 山 城 城 城 中 檜	太 仁 山 谷 山 荒
田 崎 崎 崎 後 後 後 山 崎	田 村 崎 村 本 木
羊	三 門 嘉 一 郎
三 泰	四 郎 弘 次 郎 儀 茂

引 分	引 分	引 合 体 技	大 外 刈	大 外 刈	引 大 外 卷
分 分	分 分	分 技	落	分	

松 窪 内 鈴 ○	野 島 城 中	○ ○ 島 岸 成 曰 調
本 田 海 木 崎 原 田 後 山	木 田 村 崎 村 本	津 田 宮 井
善 羊 昭 康 好 正 吉	三 門 嘉 一 郎	太 瞳 誠 伝 健
治 郎 三 勝 吉 泰 三 穂 明 正	四 郎 弘 次 郎 儀	郎 夫 一 仁 二

二級の部					三級の部												
4 ○	3	2	1		7	6	5 ○	4 ○	3 ○	2	1	15 ○	14 △	13	12	11	10
永	永	金	金		石	児	大	大	石	篠	笠	磯	磯	高	中	森	窪
浜	浜	沢	沢		渡	玉	沢	沢	井	原	原	辺	辺	木	沢	田	田
庄	壯				頭	一	達	幸	恭	慶		晃	慶	信	羊		
次	二				一	男	夫	太	郎	敬	郎	平	郎	夫	清	三	

引	背	負	投	引	引	払	払	引	大	外	払	引	合	合	引	引	大	外	引	釣込腰
分				分	分	腰	腰	分	刈		腰	分	技	技	分	分	刈	刈	分	

神	中	永	湯		○	○	児	木	大	石	篠	○	○	神	神	磯	高	中	森	
浦	島	浜	地		本	渡	玉	村	沢	井	原			谷	浦	辺	木	沢	田	
壽	讓	庄	貞		健	頭	一	太	達	幸	恭			博	法	晃	慶	信		
太	治	次	俊		造	一	男	郎	夫	太	郎	敬		八	郎	太	平	郎	夫	清

大將 副將		先鋒		普通部		普通部		六月十七日 於 綱町道場												
羽	○	渡	石	神	山	山	内	高	楨	仁	太	外	曰	山	島					
鳥	○	鳥	原	辺	渡	浦	浦	崎	崎	田	海	木	崎	村	田	山	井	崎	田	
輝	恭	徹	頭	法	羊	昭	慶	正	三	文	伝									
久	敬	夫	一	太	泰	三	勝	郎	彦	弘	郎	夫	仁	高	穰					
引	小	内	背	負	引	大	外	返	大	外	引	背	負	引	引	引	引	大	外	引
分	内	刈	負	投	分	刈	刈		刈	刈	分	投	分	分	分	分	分	刈	刈	分
大將 副將		先鋒		普通部		普通部		六月十七日 於 綱町道場												
山	古	○	○	富	○	渡	義	河	中	工	斎	前	九	窪	藤	政	弥	青山	学院	
崎	川	○	○	田	田	辺	沢	合	瀬	部	藤	田	鬼	田	田	井	本	谷		

九級の部										進級月次試合															
5	4	3	2	1							大將	副將	羽	渡	永	篠	石	右	右	右	石	神内			
森	亀	鈴	鈴	岡							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	神内			
井	谷	木	木	崎							鳥	鳥	辺	田	原	渡	渡	渡	渡	渡	浦	海			
光	寿	秀	茂								輝	徹	幸	恭							顯	法	昭		
武	彦	夫	弥	清							久	夫	郎	敬							一	太	勝		
引	引	引	引	引	大	外	刈				釣	大	引	内	送	引	内	大	外	卷	内	内	引		
分	分	分	分	分	腰	腰	腰				腰	腰	股	股	足	足	股	股	股	股	股	股	分		
三	森	亀	鈴	鈴							大	將	副	將	○	○	○	○	○	○	○	○	引		
井	井	谷	木	木							杉	笠	佐	々	馬	大	大	柳	伊	山	和	木	菊	田	樋
宗	光	寿	秀	茂							山	島	木	場	高	高	高	沢	藤	岸	田	村	地	中	口
一	武	彦	夫	弥							十月四日														

八級の部										八級の部													
鈴	鈴	鈴	中小	小	石	村	児	一		常	常	常	峰	峰	清	間	田	田	田	神	神	森	
木	木	木	木	村	西	西	田	松	玉	瀬	田	田	田	岸	岸	水	崎	井	多	井	谷	井	
正	益				滿	健	孝	益									仙	秀	時	芳	健	光	
久	男				光	男	吉	光	造								誠	三	正	夫	丸	一	
大	外	背	負	投	引	足	足	大	外	刈	引	引	引	小	内	刈	襲	大	外	引	合	引	大
外	返	投	分	払	引	足	足	内	内	刈	引	引	引	内	刈	返	襲	大	外	引	合	引	技
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
深	二	田	鈴	中	加	小	石	村	児		大	伊	志	常	志	保	大	清	間	石	田	峰	神
山	瓶	中	木	村	藤	西	田	松	玉		野	藤	澤	保	澤	野	水	崎	原	多	井	谷	
幸	雅	郁	正	益	慶		満	健	孝		皓	憲	忠	忠	皓	秀	時	芳	昭	健			
助	男	三	久	男	一	光	男	吉	光		章	男	世	誠	世	章	正	夫	一	丸	彦	一	

六級の部														七級の部									
1	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	○	12	11			
井	曾染	小満	満馬	石	石長	翁	翁内	内松	内松	三	三	永	深										
上	我部	谷林	谷谷	場渡	渡渡	井		海海	海村	村村	戸戸	井	山										
豊	精	重	俊		英	謙			敏	泰	敏			幸									
明	二	公	太	吉	理	二	二	宣	勝	三	正			剛	助								
大外刈	引	押	引	引	体	大合	背	足	引	大外刈	引	抱	合	押	合	引	引						
	分	込	分	分	落刈	技	負投	払	分	分	分	技	込	技	技	分	分						
○	滝	○	曾染	小川	○	○	○	長山	翁	小内	塩松	○	○						斎	永			
沢	崎部	谷林	口谷	場田	渡	井崎		島海	山村岡										藤	井			
貞	孝精	重隆	俊	英	英謙	修		一敏	泰	賢									一				
彦	之	二公	太三	吉理	次	二二	平	宣仁	勝豊	三郎									雄	剛			
三級の部														四級の部									
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	4	3	2	1	○	6	5	4	3	2				
部	内中高	中野	窪仁	大山	仁			太島	山山					横野	田山	高							
	海沢木	山原田	村角	崎村				田津本	本本					田村	中崎	沢							
	昭信慶	吉好	羊輝	門				三太四郎						正常	貞								
	勝夫郎	正三	三弘	男次	弘			郎	傳					実吉	司高	彦							
	引	引	引	大外刈	引	大内刈	上四方	引	引	引	引	足	大外刈	引	引	引	引	引					
	分	分	分	分	刈	分	刈	分	分	分	分	払	返	分	分	分	分	分					
○	山	内中高	中野	窪仁	大山			秋太島	荒	○				成横野	田山								
	崎海沢	木山	原田	村角	崎			元田津	木					宮田	村中崎								
	昭信慶	吉好	羊輝	門				榮三四郎	太郎茂					誠	正常								
	泰勝夫郎	正三	三弘	男次										一	実吉	司高							

先鋒
○○白神本
岸岸浜浦
豊一濤塾
雄郎太

足大内引上四方
扒股股刈分

○大和麻農
石田生生
大月五日

本塾予科対農業大學对抗試合

二級の部
6 5 4 3 2 1
○○中湯湯湯湯杉
島地地地地本
貞健
俊造

内内大引内
股股内刈分股
内内大引内
股股刈分股

○○渡中矢山渡近
○○○○大見木笠立笠
辺島島田辺藤
沢玉村原岡原
徹讓清徹
達一大太慶豊慶
夫治正三夫肇
夫男郎吉太郎

○○三加渡石山飯永木木○○古古古○○五島島守守峰
井藤会橋川田野下下部脇留留留武武武嵐田田谷谷岸
文幹卓正義泰祐 三三忠 寿房一
雄夫藏記雄司正 三八郎郎命 彰夫藏郎

送襟絞 分引背負返 技合引左私腰 左跳腰 合技合技左内股
大外返 送襟絞 橫四方 合技大外刈 跳腰上四方 左内股 大外刈 鈎足

○○横森森森吉吉吉菊菊菊菊小市安安川村村村福福武武
山田田田田地地地地寺井田田野上上上地地島島

六級の部	七級の部	八級の部
1 8 7 6 5 4 3 ○ 2 1	5 ○ 4 ○ 3 △ 村 2 1	10 9 8 7 6
石 小 高 高 岡 中 中 谷 岡	一ノ瀬	円 石 峰 峰 甲
渡 林 田 田 田 村 村 村 田	松 松 松	谷 原 岸 岸 芙
英 重 七 英 益 国 一 英	健 吉	和 仙 照
二 太 郎 次 男 郎 次	益 造	夫 一 三 彦 浩

引 鈞 押 引 引 引 大 引 引 合 大 外 引 足 引
分 込 达 分 分 分 腰 分 分 技 返 分 払 分
分 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分

○久保田	○小林	○川口	○高田	○岡村	○島村	○中谷	○森井	○鈴木	○村松	○鈴木	○峰岸
松村泰二郎	次郎	重三郎	隆次郎	英仁	益太郎	国三郎	芳丸	茂武	健弥	茂吉	峰彦

四級の部					五級の部															
4	3	2	1	○	6	5	4	3	2	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
鈴中仁	仁	谷秋太	成	成	滝	横	横	白	白	白	柴	篠	篠	篠	松					
木山村	村	村元田	宮宮	宮	沢	田	田	井	井	井	崎	崎	崎	崎	崎	村				
康吉		嘉榮三	誠貞								伝	重				孝泰				
吉正	弘	一郎	三郎	四郎	一彦					実		仁雄			之二					

引体引引					引大外引					引跳引					左合引					鉤引					払引					大外刈					大外押込				
分落	分	分	分	返	分	分	分	腰	分	足	腰	腰	腰	足	腰	腰	腰	腰	腰	腰	腰	腰	腰	腰	腰	腰	腰	腰											

○大鈴中山					○山谷秋太					○荒成					○滝調横田西					○柴藤井石					○篠				
角木山	崎		本村元田	木	宮		沢	田	中村	井	崎	郎	上	渡崎															
輝康吉	門		嘉榮三	誠			貞健	常桂	伝	重暢	豊	英孝																	
男吉	正次		傳一郎	三郎	四郎	茂一		彦二	実司	助仁	雄一	明	二	之															

二級の部					三級の部																
6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	
杉山石	児	児	児	○		大立笠	石	石	石	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
本岡渡	玉	玉	玉			沢岡原	井	井	井				沢	沢	沢	田	原	海	野	角	
健三	顯		一			達	豊	慶	太				幸			信	羊	好	昭	善	輝
造郎	一		男			夫	吉	郎					太	郎		夫	三	三	勝	正	男

引引引跳小引					大外背負					継四方後腰					大外返内股					内引					左大外刈					大外刈					継四方引					引体落					大外刈					引				
分	分	分	腰	内刈	分																																																	

○渡杉山石小渡					○木大立笠					○篠佐磯					○山高有中					○窪野内中				
辺本岡渡	野辺		村沢岡原	原	原野	辺																		
徹健三	顯信	徹	太達	豊	慶	太	恭	晃																
夫造郎	一一夫		郎夫吉	吉	敬繁	平																		

第四十五回秋季大会

幼年組
先鋒

○ 鈴岡 小志保 常田 多井 永永 鈴龜兒五 五五 五五 井中宮
木田 西西沢田 多井 井井木谷玉島島島島嶋紅
正太 忠芳 茂寿孝 精一郎 陽三郎 正太郎
久郎 光世誠 丸剛 弥彦光 仁郎

合引 扱合 引引 大外刈 大外落 大引 分分 分分 分分 分分
技分 腰技 分分 外刈 外落 分分 分分 落技 技技

先鋒

○ 村小太渡森森加加間峰神荒荒一ノ池池森浅
松泉 泉田辺井井藤藤崎岸谷木木瀬田田岡白
健伸 五友光治時仙謙宗益吉安利
吉五郎一 武郎夫三一 久造慶茂之

十一月三日

大副將

○ 成島滝滝田山山山山石石柴西外外内外中塩森三鈴
宮津沢沢中崎崎崎崎渡渡崎村山山山山海西山岡戸木
誠太貞常 英重桂文敏福賢敏
一郎彦司 高二雄之助 夫勝太郎豊一郎正

合引体大外引引上四方袈裟固大腰大外刈背負投引引釣込腰袈裟固引引合合引引
技分落刈分分四方腰大外刈背負投分分分分

大副將

○ 谷春秋荒縫横調藤井松松染滿長川島馬小高高清中
村元元木崎田野上村村谷谷井口場島田田水村
嘉一郎栄孝健暢豊泰俊謙隆一七益
一郎茂之実二一明二公吉二三仁理仁郎守男

普通部対商工学校定期戦

大将	副将																								
渡	三	笹	西	近	山	山	山	石	石	鈴	鈴	孔	小	河	河	杉	斎								
会	井	川	村	藤	岡	岡	岡	井	井	木	木	・	山	内	内	井	藤	紅							
卓	文	俊						三		幸	太	郎	庄	仁	和	哲	吾								
藏	男	夫	肇						郎	江	植	雄	郎					一							
不	引	引	足	引	合	引	背	負	押	送	襟	絞	内	背	負	体	押	内	引	合	大	外	返	背負投	
戦	分	分	払	分	技	分	投	込					股	股	落	股	込	股	分	技					
大将	副将																								
○	石	飯	桑	桑	島	島	山	浅	大	内	内	森	森	中	中	中	中	奥		○	久保田	白	次	郎	
橋	田	原	原	田	田	田	原	沢	海	海	田	田	山	山	山	田	田	田							
正	泰			房	清		達		通							吉	直								
規	司			正	藏	三	夫	勝		清						正	道								

有級者 の部	招待試合	大将	副将																						
○内海昭勝		○	羽	渡	石	楓	神	篠	山	高	窪	内	仁	太	山	岸	岸	白							
大外巻			鳥	辺	渡	崎	浦	原	崎	木	田	海	村	村	田	田	本	田	井						
安藤義治(高輪中)		輝	徹	顯	正	法	恭	慶	羊	昭					三四	四	陸	伝	男	仁					
		久	夫	一	彦	太	敬	泰	三	勝	弘														
			副将	押	引	引	上	小	内	引	引	引	引	引		横	四	方	送	襟	絞	引	引	内	
				込	分	分	四方	内	刈	分	分	分	分	分	分	方	分	分	引	分	分	引	引	大内刈	
		大将	副将																						
		湯	中	杉	児	児	磯	木	佐	中	立	城	城	松	大	野	山	有							
		地	島	本	玉	玉	辺	村	野	沢	岡	後	後	本	角	原	崎	川							
		貞	讓	健	一	晃	太	信	豊		正	善	輝	好	門										
		俊	治	造	男	平	郎	繁	夫	吉	明	治	郎	男	三	次	夫								

二段の部	初段の部
○渡加内古峰木守古羽神湯中杉渡石	○永中近杉渡辺頭
間会藤海武岸下谷桑安胥原西原武鳥浦地島藤田幸造	○本健太郎
太幹启寿豊三八郎一正憲誠壽輝壽久太	○黒川謙治
郎卓勝男雄正郎誠久輝治俊	○渡辺顕夫
引分小内刈腕逆技押込大外刈足払合技	○引分大外刈
○西川嚴(中安達○松山○中原○高橋義輝(立正大)	○小川登(高輪署)倉崎恒紀(高輪中)行田勢三郎(三田署)一条実文(学習院)田中芳夫(海軍經理)島津久厚(学習院)松重武男(海軍經理)
斎藤安之亟(皇宮警)	○松山(皇宮警)
○熊切四郎(三田署)	○中原(日)
○大	○大

復活第二回 早稻田高等学院 慶應予科高等部 対抗柔道戦

十一月十七日(日)於 講道館

審判 橋本正次郎七段

先鋒

本
留

三
郎

彰
勲

引
分

先
鋒

大
内

引
分

大
外

引
分

内
股

引
分

副
將

田
岡

清
(4)

協
(4)

不
戰

副
將

三
田

彦
(4)

河
原

田

新
(4)

平
(4)

義
(3)

夫
(3)

順
(3)

実
(3)

穂
(3)

武
(3)

三
野
守
亮
漸
(3)
又六郎
(3)

坂
村
本
山
稻
政
穗
(3)
武
(3)

鳥
海
井
良
助
(3)

講道館

○○

木
木

久
留

部

三
郎

彰
勲

引
分

先
鋒

大
内

引
分

大
外

引
分

内
股

引
分

副
將

田
岡

清
(4)

協
(4)

不
戰

副
將

三
田

彦
(4)

河
原

田

新
(4)

平
(4)

義
(3)

夫
(3)

順
(3)

実
(3)

穂
(3)

武
(3)

復
活
第
二
回

記事(講道館発刊雑誌『柔道』第六卷第一二号)

「引分に終つた第一回の後を受け第二回を講堂館に於て開いた、両軍各二〇名、昨年出場して本年も又選士として出場せるもの、早稲田一四名慶應六名、審判には橋本正次郎七段立ち、場に溢るる観衆注視の裡に両先鋒より火蓋を切る。前半慶の初段群と二段群との試合には慶の木下奮戦してやや優勢を示したるも他は引込主義に出でファンをいらだたせた。後を承けて出た早の坂本はグイグイ追込んで投げて遂に勝ち越し、悠然と場を睥睨したが倣つた様なところあり対士に礼を欠いた点は遺憾。早の大池またよく戦つて二人を抜き期待された慶の加藤

を封じたのは体力の差とはいえ堂々たるもの、早の小野寺と慶の横田とは実に美くしい試合振りを見せ、慶の副将田岡は病中を押して出場、フラフラし乍らも青山を抜き鈴木と引分けたのは悲壮の感がした。慶は遂に主将侯野を送り早の四将山田と対戦したが山田は第一回に慶の主将岡崎と組で、逃げて逃げ廻り満場罵声裡に引分間際遂に岡崎の内股に斬られた曰ク付きの選士、今度も決して組まず右手を突張り左手で相手の膝を持って這い廻り侯野困り果てて審判の顔を仰ぐこと数度、侯野一回も技を掛ることを得ず二度ばかり寝技に引込んでしまったと思うと審判の注意で分けられ遂に引分に終る。

概して謂えば慶の敗因はファイトに欠けたると、期待された主副将が働きせず、禁ぜられてはいたものの応援の力が足りなかつたのではないかと思う、初め慶が引込主義に出で、終り頃は早が引分主義に出たのは対抗戦の妙味と言ふか又弊と言ふか面白い対照であつた。技も体力を以て押し倒した感じのものが多く寝技の息づまる様ないい試合がなかつたのは寝技を許さなかつたせいもあるが味気なかつた」。

◇慶応木下初段は変化ある技を持ち、西村、山田両二段
また読売新聞十一月十八日朝刊は

を倒し氣を吐けば、早大坂本は巧者なところを見せて三人抜き、古武と引分けてリードを奪い、続く大池また一人倒して早大の勝利を確実にした。
◇慶の三将鳥海は内股で尾崎を斬つたが、技に根強さはあるが鋭さに乏しく、早の笠原の小内に悩まされて引分けに終つた。

◇慶の副将田岡は青山を漸く内股で極めたが、腰が定まらず鈴木と引分けてしまい期待を裏切つた。大将侯野は早の五将山田の引分戦法に掛り、後半寝技に攻めたが山田巧みに侯野を乗せしめず遂に引分けた。

慶応の敗因は中堅及大将副将の不振と闘志の足らなかつたことによる。(古賀残星)

進級月次試合

十一月二十九日

六級の部

7	6	5	4	3	2	1	小	西
深	永	塩	村	○	森	岡	賢	光
山	井	山	松	村	岡	健	一	郎
幸	助	剛	健	松	健	吉		
	引	分	引	分	足	払	引	分
引	分	引	分	足	払	大	外	刈
山	深	永	井	○	塩	小	西	
路	修	平	助	剛	山	健	一	郎
修	平	助	剛	豊	光	吉		

	丙組の部	無級の部	五級の部
1 満	8 ○ 満満満満満満満満	7 ○ 渡大山山山山	6 ○ 島白白白白白
口 路	5 ○ 口口口	4 ○ 辺野賀賀	3 ○ 津井井井
喜久男	2 ○ 喜庄皓	1 ○ 太伝	○ ○ 一隆益
	○ ○ 喜久男助章	○ ○ 了功	○ ○ 仁匡修
合 技	○ ○ 大内刈	○ ○ 小外刈	○ ○ 引裂婆固
	○ ○ 大内刈	○ ○ 引裂婆固	○ ○ 大外刈
孔	○ ○ 大武溝渡大山山	○ ○ 島内口辺野口賀	○ ○ 成島滝横
仁	○ ○ 仁喜庄皓春	○ ○ 植安助章男了	○ ○ 誠太貞彦実
植	○ ○ 孔守小川中翁木	○ ○ 島谷島口村	○ ○ 仁育一隆益
	○ ○ 孔田	○ ○ 仁介仁三男宣二	○ ○ 植一

	三級の部	四級の部	乙組の部
4 笠	3 ○ 中野野	2 ○ 松仁山大谷	1 ○ 奥久保田
原	3 ○ 原原原	2 ○ 本村崎角村	1 ○ 久保田
慶	1 ○ 信好	1 ○ 善治郎	1 ○ 直道
太	1 ○ 郎三	1 ○ 弘次男郎	1 ○ 直道
太	1 ○ 郎夫	1 ○ 郎	1 ○ 仁植
体	大引	大引	合引
落	外引	内引	合引
	返分	返分	技分
	分	分	技

○ ○ 神笠中神	○ 高松仁山大	○ 小城二久保	赤奥河
浦原沢浦	木本村崎角	山後谷	松田内
法慶信法	慶善治門輝	和重雄次	直哲
太郎夫太	三郎郎弘次男	雄明平郎	栄道郎

「余
録」

講道館紅白試合

羽鳥輝久

拔群六人抜放 三月八日

和田徳藏

久勃
拔群五人抜 五月十二日

皇宮警察武道大会

五月十八日

○箱田玄輔

(3)

○田岡協祐

(4)

(5)

大島(皇宮警)
志田(横鎮)

日吉柔剣道場竣工

九月三十日

曾ての天現寺寄宿舎を移築改造した木造平家建一六〇坪で、更に木造二階建延七五坪の浴場が附属されてい

る。